

## 世界のリンゴ市場

FreshPlaza 2023年9月29日

**オランダ：エルスター品種の販売が順調に開始** オランダのある果実業者は、エルスター品種のリンゴの出荷シーズンが順調に始まったとして、「現在、オランダのスーパーは皆利益を上げていると思う。それは主にこのリンゴの味と棚持ちの良さによるものである。今年のエルスターは大変品質が良い。良いエルスターを選別すると65～70セントになるが、これは昨年より30%高い。昨年の平均価格35～40セントであり、この価格では生産できない。今の順調な売れ行きを見ると、シーズン後半には価格がさらに上がると思う」と話す。

**ベルギー：国内産は品質と量の点で問題が多い** 今シーズンのベルギー産のナシは順調であったが、リンゴは問題が多い。ベルギーのある業者は、「昨年のリンゴ作が平凡であったためベルギーでは多くの生産者がリンゴを伐根することを決定し、市場への入荷量が減少した。さらに、生育期間中に雨が多く、黒星病が蔓延して難しい状況であった。早生品種のリンゴはよく売れたが、この2つの要因によりジョナゴールドは再び難しい状況になる恐れがある。有機リンゴも同様だ。また、黒星病のために加工用が多くなる。出荷期間は6月まで続かないだろう。価格は昨年より良いが、弊社はシーズン最後まで出荷できないだろう」と言う。

**ドイツ：記録的な2022年の後、2023年は通常の収穫** ラインラント地方のエルスターとガラは収穫量は、豊作であった昨年と比較してわずかに少なくなる。ある生産者は、「今年の収穫量が減ることはおかしなことではない。昨年の収穫量が多かったため、今年は普通になるだけだ」と言う。他の産地でも収量が減る。ドイツ北部のアルテスランド地域(果樹地帯)では、昨年より13%少ない29万9千トンの収穫が見込まれている。

**オーストリア：不安定な出荷量が輸出機会を制限** オーストリアのシュタイアーマルク州では、リンゴの収穫が本格化している。ある輸出業者は、多くの生産者は霜害により深刻な問題を抱えていると強調し、「近年は深刻な天候問題、特に霜害に対処しなければならぬことが多く、出荷量が極端で不安定である。このような不安定な状況下で新しい輸出市場を開拓することは困難であり、場合によっては不可能だ」と述べた。

**スイス：トゥールガウ州とヴァレー州が引き続き最大の産地** スイスのリンゴは品種によって8月から10月に収穫される。貯蔵性が良いため、一年中出荷できる。2022年のスイスのリンゴ栽培面積は約3,700ヘクタールであった。トゥールガウ州とヴァレー州が最大の産地である。ガラ品種はスイス産のリンゴの中で明らかにナンバーワンであり、ゴールデンデリシャスとブレーバーンがそれに続く。

**フランス：有望な販売年** 2022年の出荷シーズンは生産コストの上昇と悪天候により困難であったが、今年は果樹園の大きな気象災害を免れた。全国リンゴ・ナシ協会は、「2023年の収穫は良いものになりそうであり、量と質の両方の点で消費者を満足させるはずである」としている。今年は合計150万トンのリンゴが収穫されると予想されており、これは2022年に比べて12%、過去3年間の平均に比べて10%(12万トン)多い。収穫量は近年よりも多いが、潜在的な最大生産量には達しておらず、量に関してはまだ平年並みである。販売面では今年は持ち越し在庫が無く、需要が強いことから良い価格が維持できると見られる。

**イタリア：今シーズンの国内産に楽観的な期待** 南チロルのあるコンソーシウムは順調な出荷開始を見込んでいる。出荷量は10%増と見られ、品質も良い。有機栽培品の増加が見込まれ、クラブ品種も増えている。

国内市場は活況を呈しており、輸出業者からの引き合いも強いほか、スペインやドイツとの取引も活発である。アジア市場では、イタリア産のリンゴが大きな存在感を示しており、昨シーズンは6万3千トン以上が極東に輸出された。ほとんどがインド向けであったが、シンガポールと香港にも輸出された。イタリア産リンゴの品質と多様性により、台湾、タイ、ベトナムなど他のアジア諸国も次第に重要な市場となってきている。

**スペイン：荒天にもかかわらず増収の予測** スペインの主要産地であるカタルーニャ州の今年のリンゴ収穫予測は26万6,110トンで、過去5年間の平均に近く(-1%)、昨年より22%多い。現在までに、同州リエイダ県では雹を伴う嵐が何度かあり、5月7日には約282ヘクタールの80～100%で被害が発生し、6月13日には約250ヘクタールの70～100%で被害が発生した。6月29日には一部の地域で強風と豪雨の被害があり、施設の損壊(防雹ネットの破損等)や枝の折損が見られたが、出荷量にはほとんど影響がなかった。全国的にはガラとゴールデン系品種の収量増と、小玉化するものの高品質が期待される。

**ギリシャ：異常な天候で供給量が最大60%減少** ギリシャのリンゴ生産量は通常よりも少ないと予想される。ギリシャのリンゴ生産量の約20～30%を占めるラリッサ地域では、年間8万トンのリンゴが生産されており、リンゴの果樹本数は90万本を超えている。収穫は、ガラやオザークゴールドなどの早生品種から始まり、ジェロミン、レッドベロックス、スカーレット、スーパーチーフ、レッドカップなどの果皮の赤い品種に移行し、最後にふじやグラニースミスなどの晩生品種に変わる。グラニースミスはこの地域で最も増加しており、年間生産量の約40%を占めている。今年は大規模な嵐の影響があったが、この何年も気象災害が発生している。今年は悪天候により出荷量が60%減少し、供給量が少ないと見られることから、すでに引き合いが強くなっている。

**ポーランド：生産量は少ないものの品質は良い** ポーランドのリンゴの生産量は減少すると予想されているが、あるリンゴ輸出業者は今年のリンゴの品質に満足しており、「ポーランドでは、リンゴの総収穫量は前シーズンと比較して約11%少ないものの、輸出向けで最も人気のある品種の収穫量は変わらないようだ」と言う。この輸出業者は、ポーランドの巨大な国内市場とヨーロッパ市場の両方に力を入れ、後者では特に中欧及び東欧諸国に注目する。リンゴはさらにインドと南米にも輸出される。成長の面では、この業者は欧州内の取引先やタイ、マレーシア、インドネシアなどの新しいアジア市場への出荷を増やしたいと望んでいる。

**トルコ：出荷シーズンの開幕は有望だが、熱波による被害は未だ不明** トルコのリンゴシーズンの開幕はこれまでのところ有望であり、生産者と輸入業者は様々な市場で高い期待を表明している。輸出業者らは、高品質の果実を大量に輸出する準備ができています。新シーズンは、今年特に人気があると予想されるガラ品種で8月末頃に始まった。カラマン/ニーデの両県では新植された園地からの出荷も開始された。ガラは、特にインドで予想以上に大きな需要がある。全体として、トルコの2023年のリンゴのシーズンは、品質と量の両面で成功が見込まれている。しかし、今年の夏の熱波は、日焼け、水ストレス、果実の落下、果実の品質の低下など、多くの問題を引き起こす可能性がある。熱波の影響の程度は、熱波の強度と期間、熱波のタイミング、リンゴの果樹の回復力など、様々な要因に依存する。

**インド：輸入リンゴの人気次第に高まる** インドの消費者の間では、様々な産地の様々なリンゴが人気を博している。ある輸入業者によると、最も人気のある輸入リンゴの原産地は、イタリア、ポーランド、トルコ、セルビア等である。これらの国々は、様々な市場へのリンゴの主要な供給者としての地位を確立している。品種では、イタリア産のリンゴ、特にガラ、レッドデリシャス、エプリなどの品種は、その品質と風味で際立っていることが多い。ジョナゴールドやアイダレッドなどポーランド産のリンゴも高く評価されている。ガラ、レッドデリシャス、グラニースミスなどのトルコ産のリンゴは、その食感と甘さで注目に値する。一方、ガラ、ピンクレディー、スタークデリシャスなどのセルビア産のリンゴも人気を博している。これらの産地と品種は、輸入市場における多様なリンゴの提供に貢献している。

**北米：2023年はリンゴの豊作が見込まれる** 米国最大のリンゴ産地であるワシントン州では、今シーズンの増収を歓迎している。昨年の収穫量は1億箱前後であったが、今年は1億2,700万箱～1億3千万箱の総生産量を予想している。収穫開始は遅かったが、果実は極端な風や気温が原因で生じる擦り傷や変色がなく、きれいに見える。ミシガン州では今年も豊作(昨年の記録的な収穫量の約90%)であり、ペンシルベニア州では予想どおり豊作に近づいている。北東部は、米国のリンゴ生産で約10～15%のシェアがあるが、ニューヨーク州のリンゴの生産量は悪天候により約20%の減少が予想される。カナダのブリティッシュコロンビア州では収穫量が今年約15%減少するという初期の兆候があるが、オンタリオ州では前年並みである。

**アルゼンチン：近隣諸国への出荷が輸出を後押し** アルゼンチン果実生産者会議所(CAFI)の月次果実統計によると、2023年1月から8月までのデータで、リオネグロ州とネウケン州からのリンゴの輸出量は5万1,056トンで2022年の同時期と比較して28%増加した。この期間のアルゼンチン産リンゴの主な輸出先国を見ると、同じ大陸の国々への販売がこの大幅な成長を牽引していることが推測できる。ブラジルは最大の輸出先であり、前年比44%増で全体の31%を占める1万5,824トンを入力した。ボリビアが7,738トン(+10%)でこれに続き、パラグアイは151%増の6,954トンで3位であった。エクアドルの成長はさらに顕著であり、407%増加して第10位の輸出先となった。一方、ロシアへの輸出は36%減少し、欧州各地の市場でもフランスが34%、ノルウェーが42%、オランダが6%、イタリアが100%減少した。

(一部省略・要約しました。)